

## 2021 年度アウトリーチ事業を基本とした企画事業の実施報告

永原達哉、朝田恵美 \*

### 概要

新型コロナウイルス感染症への対処が変わっていく中でのアウトリーチ事業の対応、及び工事による長期休館中の展示解説ボランティア「サイエンスガイド」の対応について報告する。

#### 1. はじめに

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により不特定多数が集まるアウトリーチ事業においてもイベントの自粛は続いた。ただ感染者数増加がおさまり、自粛等が収まっていた時期に偶然重なった数件は、実際に観客の前で事業を実施することができた。しかし、3月には再び新型コロナウイルス感染症拡大の状況が悪化したことから、オンラインによる事業を実施した。

8月から始まった長期期間にわたる工事により活動を休止した展示解説ボランティア「サイエンスガイド」については企画・評価担当者が、サイエンスガイドの指導兼世話役であるサイエンスガイドリーダーと共にビデオを製作して、オンラインを中心に定期的に研修を実施した。以下、それらの取り組みについて主だったものを報告する。

#### 2. おでかけサイエンス

##### 2-1. 実施の経緯

11月から12月にかけて感染の規制が緩和された時期に以下3件を実施することができた。

- ①企画展示での動画制作・学芸員の現地解説
- ②ショッピングセンターでのサイエンスショー
- ③大ホールでのサイエンスショー
- ③幼稚園でのサイエンス縁日

##### 2-2. 準備段階の工夫

###### ①企画展示での動画制作・学芸員の現地解説

①については、会場が密にならないように、動画での紹介を盛り込むことになり、その動画製作を行った。



(2-2-1: 紹介動画の一部。担当の上羽学芸員)

###### ②ショッピングセンターでのサイエンスショー

新規開店のオープニングイベントの一環で依頼があった。今回は数日に渡り行われる規模の大きなイベントの中の一つの演目であったために、全体の運営を担当するイベント会社による会場チェックや、希望している会場設営についてなかなか進まない状況が続いたが、最低限必要な備品の確保やスケジュールの念押しには注意を払った。ただイベント当日に準備が不十分な場合があることを想定して現場対応を考えておいた。

###### ③大ホールでのサイエンスショー

1000人以上を収容する大ホールを会場とした催事でのサイエンスショーの依頼があり、コロナ禍の間を縫う形で実施することができた。

本イベントでは当方の内容の前後に別の出演者による演目を実施されたために、舞台の使用方法などについても綿密な調整を必要とした。

サイエンスショーの内容は、照明や暗転の調整が

\*大阪市立科学館総務企画課企画・評価担当 kikaku@sci-museum.jp

行いやすいホールの特性を活かしつつ、大人数の観客が、遠くから見てもわかりやすい演目である「光の三原色」とした。大ホール専属の舞台技術者に演示の流れなどを把握してもらい、照明をあてる位置や調光、明暗転のタイミングなどの調整を行いつつ、当日に十分なりハーサルを行った。

#### ④幼稚園でのサイエンス縁日

「サイエンス縁日」とは、前述のボランティア「サイエンスガイド」が展示場で行うプチ・サイエンスショーをベースにした科学ワークショップを、アウトリーチ事業として実施する際の名称である。今年度で閉園が決まっている幼稚園でのサイエンス縁日の依頼であったため、教師、世話人などとのスケジュール調整の中、新型コロナウイルス感染症対策にも配慮しつつ、想い出に残るイベントになるように準備した。具体的には、園児が普段利用している教室を3つ全て使い、各部屋を順番に訪問しながら、それぞれのワークショップを楽しんでもらうようにした。各部屋での思い出づくりをねらうとともに、一つのワークショップに参加する園児の人数を制限しながら、触った道具のこまめな消毒を可能にするなどの工夫を行った。



(2-2-2 : ドレミパイプの部屋)



(2-2-3 : CD ホバークラフトの部屋)

## 2-3. 結果

### ①企画展示での動画制作・学芸員の現地解説

会場では当館学芸員が製作したパネルの展示と、前述の製作した動画の上映を行った。また、担当学芸員が会期中の1日、現地で展示解説を行った。

### ②ショッピングセンターでのサイエンスショー

当館から依頼者へ要請していた備品が揃っていなかったため、ショーの実施に欠かせない優先順位最上位の備品について、準備とリハーサルにかかる時間に制限があることから、会場側に直接備品をお願いして用意してもらった。また本番直前に別内容とのコマース活動が入ったために、サイエンスショー直前のスケジュール変更などがあった。

新型コロナウイルス感染症対策については、イベント運営者とともに、消毒液の準備や三密にならないような会場規制等行いながらサイエンスショーの演示を行った。ショーの途中、道具を触ってもらうなど、観客に参加してもらうコーナーも設け、参加の前後にスタッフが観客の手をこまめに消毒するなど、細心の注意を払った。

### ③大ホールでのサイエンスショー

地元の学校が複数校出演する大型の催事の中で実施したため、観客も主に参加者の家族等、会場の近隣住民が多く、科学館に馴染みの無い多くの親子連れが会場に訪れた。新型コロナウイルス感染症対策については、出演者や観客の動線をしっかりと考えることにより、密にならない工夫を行った。また本番や舞台転換時の移動などは、観客との距離を確保しながら舞台上でサイエンスショーに協力してもらうなどの工夫を行った。全体としては大きなハプニングもなく、予定通り盛況のうちに終えることができた。

### ④幼稚園でのサイエンス縁日

参加した園児たちを3班に分け、一つずつのワークショップに集中してもらったことにより、園児たちも「なぜこんな色になるのだろう」「なぜこのような動きや音になるのだろう」といった疑問をしっかりと考える時間が取れたようで、終了後には、科学の多くの質問や感想を園児たちからもらうことができた。また、教師や保護者、イベントの世話人も園児に付き添ってサイエンス縁日の現場を見たことで、科学館が日頃実施しているプログラムにも興味を持ってもらうことができた。



(2-3-1: ドレミパイプの実施風景)



(2-3-2: CD ホバークラフトの実施風景)

## 2-4. 反省点

種類の違うイベント3種について共通していえることは、依頼者との意思疎通をしっかりと行うことである。①や②のようにイベント本体の事業規模が大きい場合は、イベント全体の内容を把握して、当館が実施するアウトリーチ事業が、依頼者のイベント中で何を目的とし、何をねらうものなのか、内容の位置づけを理解することである。

イベント規模が大きい場合、担当者とイベント統括者のイベントの捉え方が違うことがある。参加者に対しての考え方が現場と異なる可能性があるために注意が必要である。

## 3. 館内事業～電気記念日スペシャルイベントの場合

### 3-1. 実施の経緯

電気記念日スペシャルイベントは、3月25日の電気記念日を記念し、電気記念日行事関西実行委員会(以下、実行委員会)との共催で、科学館内で実施しているイベントであり、毎年多くのサイエンスガイド等のボランティアが参加し、来館者に対して科学工作ワークショップなどを行っている。

今年は科学館が設備等改修工事により長期休館だったこともあり、新規の演目を準備する時間が取れない

ことから、サイエンスガイドによる既存のプチ・サイエンスショーの演示を観客の前で行うことを計画していた。

また、学芸員によるサイエンスショー研修を受講し、現在は主にサイエンスショーの実演に携わっている科学館ボランティア「科学デモンストレーター」を講師とした、科学工作教室、および、外部講師によるクイズ形式のワークショップを計画していた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、対面が前提となるプチ・サイエンスショーは実施を見送り、科学デモンストレーターの科学工作教室、および外部講師によるクイズをオンライン開催することとした。

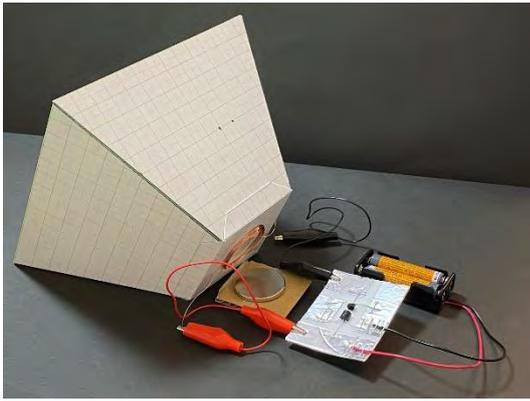


(3-1-1: 館内掲出用ポスター)

## 3-2. 実施内容

### ①オンラインでの科学工作教室

科学デモンストレーターが、過去に別のオンラインイベントで実施した内容のうち「ふるえる! きこえる! なんでもスピーカー」と「ふわふわ! くるくる! 静電気」を実施した。事前に申込者をホームページで募り、当選者に対して、科学館で用意した工作キットを送付して、Zoomで講師の進行に沿って参加者が科学工作を行った。途中、通信トラブルが起きるハプニングがあったが、講師が過去の経験を活かしてかなり緻密かつ丁寧なフォローを行った結果、参加者の満足度は大変高いものとなった。



(3-2-1:「ふるえる! きこえる! なんでもスピーカー」の工作キット)



(3-2-2:「ふわふわ! くるくる! 静電気」の工作キット)

## ②ダジックアース・クイズ

地球や気象衛星の模型などを使った「ダジックアース・クイズ」をオンライン向けにアレンジした動画をYouTubeで配信し、電気記念日当日から1週間程度オンラインで視聴できるようにした。ダジックアースは、科学館の展示場4階でも体験できるコーナーがあり、そのコーナー横にYouTubeリンクするQRコードを、電気記念日当日に大きくポスターで掲出し、コードをスマートフォンで読み取った参加者がクイズ動画を視聴できるようにした。



(3-2-3: オンライン動画の一部)



(3-2-4: オンライン動画の一部)

## 3-3. 今後の課題と展開

従来アウトリーチ事業は観客との対面で実施することを想定した内容であることから、急遽オンラインでの事業実施に切り替えた際に、運営側のノウハウの積み上げが無く、特にオンライン工作教室についてはほぼ講師のスキルに頼りながら運営を行った側面が強い。その結果、準備段階で想定外に作業に時間を要してしまったことや、不測の事態に十分に対応できなかったことが挙げられる。

今後、様々な事例を元にオンラインでの事業実施を検討し、担当者自身が持つノウハウを活かしながら、より参加者の満足度を上げていくにはどうすれば良いのか、またオンライン事業を単なる対面での代替手段と考えるのではなく、オンラインならではの良さを活かした事業として、ポストコロナ時代にふさわしい事業にしていくにはどうすれば良いのかを、今一度検討していく必要がある。

## 4. サイエンスガイド

### 4-1. 活動中止期間の取り組み

2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に関わらず、当初から設備改修等により約半年間の臨時休館が予定されていたことから、事前にサイエンスガイドリーダーと共に、展示解説のスキル向上のためのオンライン研修を計画していた。

#### (おうちで展示研修)

学芸員が展示物を開設する一般向け動画「学芸員の展示場ガイド」を新たに数本撮影し、サイエンスガイドの展示解説に必要なポイントなどを解説した研修ビデオ「おうちで展示研修」と合わせて準備し、9月から12月にかけて順番にYouTubeで配信し、サイエンスガイドが自宅で視聴しながら研修ができるようにした。

また動画での研修を補足する内容として、展示場の展示解説の文字起こしをサイエンスガイドリーダーと職員で手分けして行い、研修動画の視聴のポイントと合わせてテキスト化、動画と合わせてオンラインでダウンロードできるようにした。

また、活動中止期間のモチベーションを維持するため、サイエンスガイドリーダーから定期的に情報を発信する「サイエンスガイドかわら版」と、サイエンスガイドが近況を報告する「サイエンスガイド掲示板」を、定期刊行物と合わせて郵送するなどの取り組みを今年度も継続することで、定期的にガイドとガイドリーダーの双方が交流を図ることをねらった。

## 大阪市立科学館



(4-1-1: タイトルデザイン)



(4-1-2: 1回目案内\_出山リーダー)



(4-1-3: 2回目案内\_谷坂リーダー)



(4-1-4: 3回目案内\_筒井リーダー)

### 4-2. 今後の課題

新型コロナウイルス感染症や長期休館などで度々活動中止を強いられるサイエンスガイドにとって、最も難しいことは活動への参加意欲の維持である。日頃の活動の中で先輩ガイドやリーダーなどの交流を通じて解説や実験を演示する経験を積み、技術を向上させることができる。それがまた参加意欲の糧となるだろう。

我々は活動を楽しく継続していただくための根幹となる”サイエンスガイド活動への参加意欲”を維持していただくために創意工夫を怠ることなく努めたいと考える。

### 5. おわりに

アウトリーチ事業やサイエンスガイド活動を通じて我々が目指すのは、科学を心から楽しいと思ってもらえる時間を提供していくことにある。

当然のことだが、人には一律1日24時間しかない。そのうちの1/3を睡眠で費やしているとしたら、1日16時間をどう使うかが大切になる。その大切な時間を科学館のイベントや活動のために使ってもらえることは大変ありがたいことである。新型コロナウイルスの感染が起きてから、その気持ちはより強くなっている。

感染は収束することなく3年が経とうとしている。その対応は変わり続け、今では年齢によって大きく変わってきている。年齢層の幅が広い科学イベントでは感染拡大の可能性が高まるために実施を見送る依頼者が多数あった。

行政が明確な要請を出さなくなった今、現場の判断はますます難しくなっている。しかしながら、前述の人々が科学を楽しむ光景がより多く見られるように努力を続けたいと思う。